上向台小だより

１０月号
西東京市立上向台小学校
令和８年１０月１日

http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai

令和８年度　前期学校アンケート（児童・保護者）のまとめ

日頃より、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中「学校評価アンケート」に御回答いただき、心より感謝申し上げます。皆様からいただきました御意見や集計結果を全教職員で共有し、今年度の教育活動の成果と課題について分析を行いました。その内容と今後の改善に向けた方針につきまして、本号にて御報告いたします。

今年度の集計結果におきましては、多くの項目で児童・保護者の皆様から大変高い評価をいただくことができました。日頃の御家庭での温かい見守りと、学校の教育方針への御理解の賜物と、深く感謝しております。皆様から高い評価をいただきました取組につきましては、今後も継続・発展させて参ります。一方で、各項目における児童と保護者の皆様の意識の差や、自由記述等でいただきました率直な御意見・課題につきましては真摯に受け止めております。見いだされた課題に関しましては、全教職員でしっかりと共有し、一つ一つの改善に向けて学校全体で取り組んで参ります。

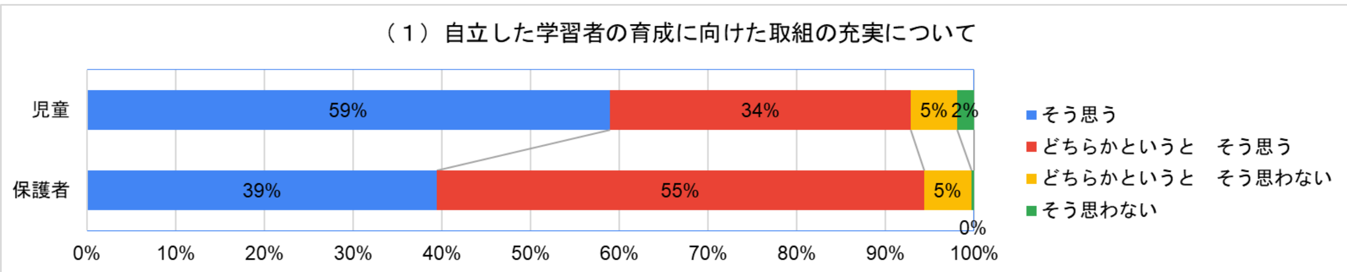
今後も御家庭や地域の皆様としっかり連携しながら、子どもたちが安心して生き生きと学べる学校づくりを推進して参ります。引き続き、変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本資料に掲載している各グラフの数値は、四捨五入して表示しているため、合計が 100%にならない場合があります。あらかじめ御了承ください。

（１）自立した学習者の育成に向けた取組の充実について

【設問】

- **児　童**：授業では、学習の仕方を自分で選んだり、考えたりして学習を進めていますか。
- **保護者**：授業では、学習の仕方を自分で選んだり、考えたりして学習を進めていますか。（授業参観などの様子から、またはお子さんに授業での取り組みについて聞いてみてください。）

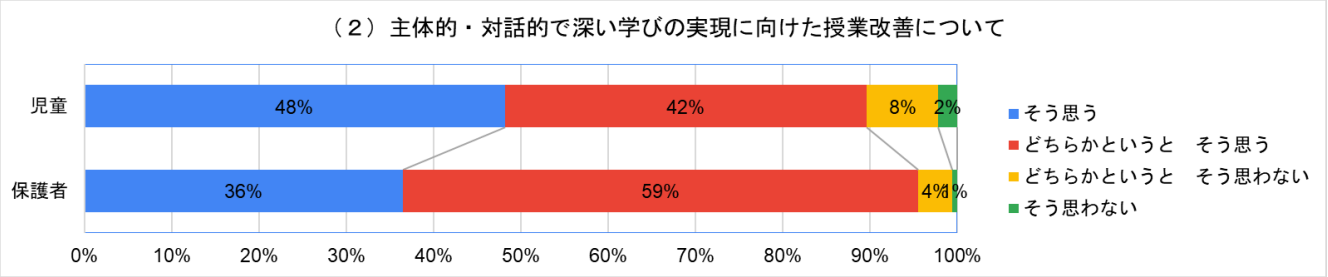


（１）自立した学習者の育成に向けた取組について、児童の 93%、保護者の 94%が肯定的に回答しており、高い評価が得られました。子どもたちが自分で考え、選択しながら学習に取り組む姿が見られるようになってきていることがうかがえます。一方で、学習に苦手意識をもつ児童や受け身になりがちな児童もいるため、一人一人が安心して自分のペースで学べる環境づくりが引き続き求められます。今後は、子どもたちが主体的に学び方を選択できる機会を充実させるとともに、分からないことを安心して質問できる雰囲気づくりや個に応じた丁寧な支援を行い、自立した学習者の育成に取り組んで参ります。

（２）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

【設問】

- **児　童**：授業では、その単元で身に付ける力や単元全体の計画が分かった上で、自分で工夫しながら学んでいますか。
- **保護者**：魅力的なパフォーマンス課題（授業で学んだことを実生活の中でどのような活用できるかをみるレポートや発表、作品づくり、実演などの課題）を設定し、子どもたちが課題に向けて楽しみながら学習を進める中で資質・能力を身に付けていく単元（題材）づくりに取り組んでいる。（お子さんに単元計画や成果物を見せてもらってください）

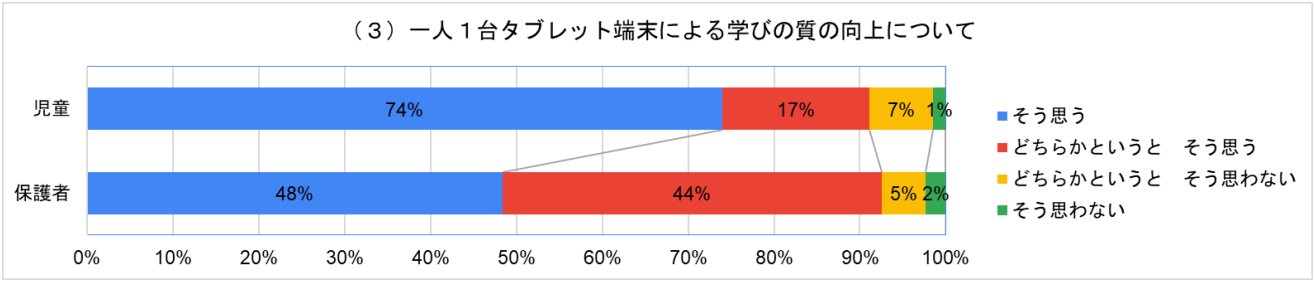


（２）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について、児童の 90%、保護者の 95%が本項目について肯定的に回答しており、高い評価が得られました。単元のゴールや見通しを明確にし、魅力的なパフォーマンス課題を設定して取り組む中で、子どもたちが楽しみながら学びを深めている様子がうかがえます。一方で、保護者からは「パフォーマンス課題の具体的な対象やねらいが伝わりづらく評価しづらい」という声も寄せられました。取組の目的や成果物の共有方法に工夫が必要であることがうかがえます。今後も、様々な知識やスキルを統合して使いこなすことができるようなワクワクするパフォーマンス課題の設定に努めるとともに、対象となる取組のねらいや具体例を事前にお伝えするなど保護者への周知・発信を丁寧に行い、授業改善と家庭との共有を進めて参ります。

（３）一人１台タブレット端末による学びの質の向上について

【設問】

- **児　童**：授業では、タブレットを活用しながら学習することができていますか。
- **保護者**：授業では、タブレット端末を活用し、児童の学びに生かすことができていると思いますか。

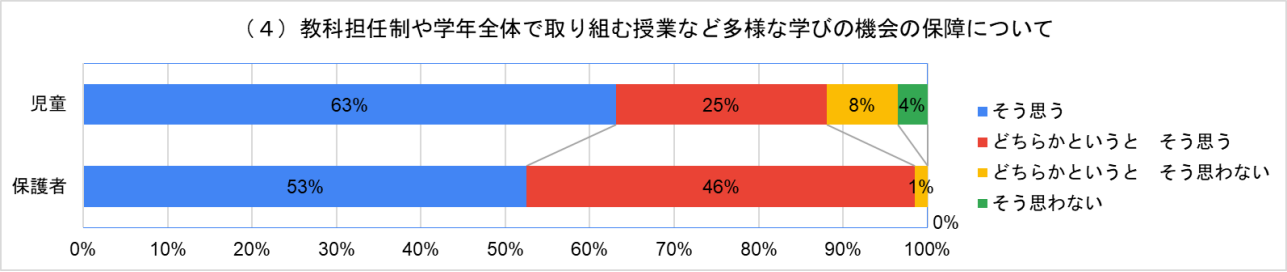


（３）一人１台タブレット端末による学びの質の向上について、児童の 91%、保護者の 92%が肯定的に回答しており、高い評価が得られました。デジタルを活用することにより、お互いの学習をリアルタイムで閲覧し合い、考えを深めるなど、多様な子ども一人一人に応じた学びが展開できるようになってきたことがうかがえます。自由記述では、家庭での使用環境や使用ルール（学習目的外の利用等）に関して、保護者の方からの御意見や御心配のお声をいただきました。今後も、「情報活用能力育成のための系統表」に基づき、基本的な操作や学びのプロセスを意識した学習指導を進めるとともに、ルールを守って正しく使うための指導を徹底して参ります。また、御家庭での適切な使い方やルールにつきましても、「GIGA 家庭ルール」を適宜見直し、学校と連携して取り組んでいただけますよう、御理解と御協力をお願いいたします。

（４）教科担任制や学年全体で取り組む授業など多様な学びの機会の保障について

【設問】

- **児　童**：教科ごとに先生が変わることで、その教科がもっと好きになったり、よく分かるようになったりしたと思いますか。
- **保護者**：（高学年）教科担任制の教職員の授業に満足していますか。／（低・中学年）学年全体で内容ごとに児童が教室を選んで行う授業や交換授業、学年集会等、学年全体で取り組む活動に楽しみながら学んでいますか。

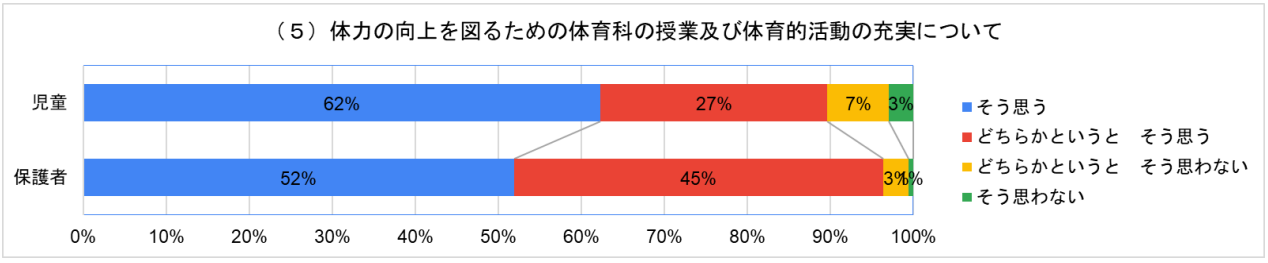


（４）教科担任制や学年全体で取り組む授業など多様な学びの機会の保障について、児童の 88%、保護者の 99%が本項目について肯定的に回答しており、教科担任制や学年での交換授業等の取組が極めて高く評価されていることが分かりました。専門性を生かした指導や複数の教員が関わることで、豊かで多様な学びの機会が確保されています。一方で、低学年等では取組内容の具体的なイメージが保護者に伝わりにくい面もあるため、日常の様子をより分かりやすく伝えていく配慮も求められます。今後は、学級担任と教科担任（学年教員）が密に連携し、児童一人一人の学習状況をきめ細かく把握するとともに、取組のねらいや子どもたちの様子を家庭にも分かりやすく発信し、更なる安心感と理解につながるよう努めて参ります。

（５）体力の向上を図るための体育科の授業及び体育的活動の充実について

【設問】

- **児　童**：体育の学習に楽しく取り組み、自らすすんで目標を設定し、運動していますか。
- **保護者**：児童は、得意・不得意に関係なく、体育の学習や体育的行事に意欲的に取り組むことができていると思いますか。



（５）体力の向上を図るための体育の授業及び体育的活動の充実について、児童の 89%、保護者の 97%が本項目について肯定的に回答しており、体育の授業や運動に親しむ活動が概ね良好に受け止められていることが分かりました。自ら目標を設定し、体を動かす楽しさを感じている児童が多く見られます。一方で、運動や水泳に苦手意識をもつ児童への個別の関わりや指導の深め方について、更なる配慮を求める御意見も寄せられました。

前期には、第１学年及び第３学年に対し、西東京市体育協会による「小学生ソフトボール体験教室」、第５学年に対しては、元水球オリンピック選手による「ボール投げ教室」、第３学年に対しては、日本サッカー協会（JFA）と日本財団が「子ども未来プロジェクト」の一環として立ち上げた子ども支援事業「ゆめのたねの教室」を実施しました。「ゆめのたねの教室」では、本校卒業生の元サッカー選手を含めたアスリートと一緒に様々なゲームをしたり、「夢」のきっかけとなり得る「好きなこと」＝「ゆめのたね」を見付けたりしました。様々なゲームを行う中で、子どもたちの頑張る意欲を引き出すとともに、失敗する友達がいたとしてもそれを受け入れて励まし、

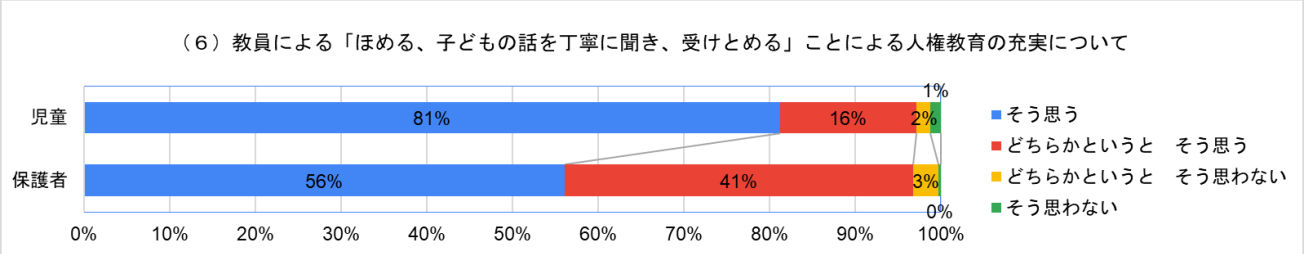
次への挑戦につながる雰囲気を醸成していました。これらの取組から、子どもたちが、自分を信じて諦めずに夢を叶えたトップアスリートの方々と触れ合い、様々なことを感じながら、夢や目標に向かって失敗を恐れずに挑戦できる心を育むことができるのではないかと考えています。

今後も、このようなことを積み重ね、得意・不得意に関わらず誰もが安心して意欲的に参加できるよう、一人一人の習熟度に応じた丁寧な声掛けや具体的なアドバイスを徹底して参ります。また、周囲と比べるのではなく、自分の成長や頑張りを実感し、互いを認め合える授業づくりに努めて参ります。

（６）教員による「ほめる、子どもの話を丁寧に聞き、受けとめる」ことによる人権教育の充実について

【設問】

- **児　童**：先生は、よいことをほめ、よくないことをしっかりと教えてくれますか。
- **保護者**：教員は、児童に対して、よい行動を認めて褒めて伸ばすとともに、必要な指導を適切に行えていますか。

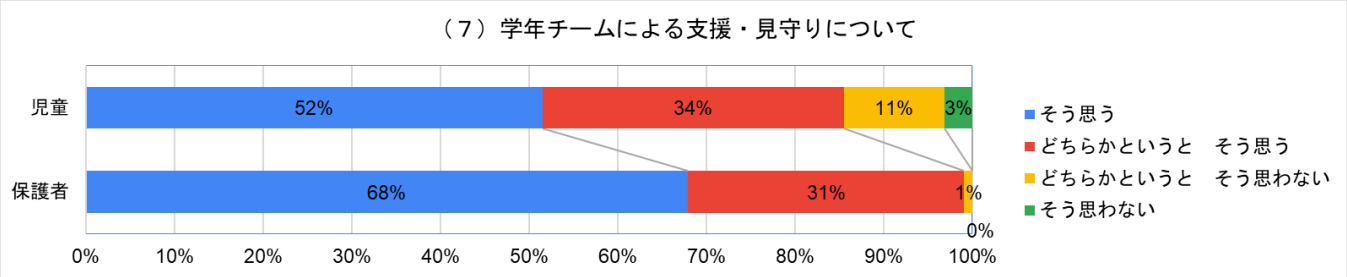


（６）人権教育の充実については、児童の９７%、保護者の９７%が肯定的に回答しており、極めて高い評価が得られました。「西東京市あったか先生」を合言葉に、子ども一人一人のよさを認めて褒めて伸ばす関わりや、必要な場面での適切な指導が子どもたちの安心感や信頼感につながっていることがうかがえます。今後も、全教職員が「あったか先生」として、児童一人一人のよさや頑張りをしっかりと認めて褒める指導を充実させるとともに、いじめの未然防止や自他を大切にする態度の育成に取り組んで参ります。また、必要な指導についてはきめ細かく適切に行い、御家庭とも密に連携しながら、子どもたちが安心して学校生活を送れる環境づくりを進めて参ります。

（７）学年チームによる支援・見守りについて

【設問】

- **児　童**：学年や副担任の先生など、担任以外の先生にも気軽に話ができるようになりましたか。
- **保護者**：担任だけではなく、学年の教員や副担任がチームとしてお子さんを見守る取組はよいと思いますか。

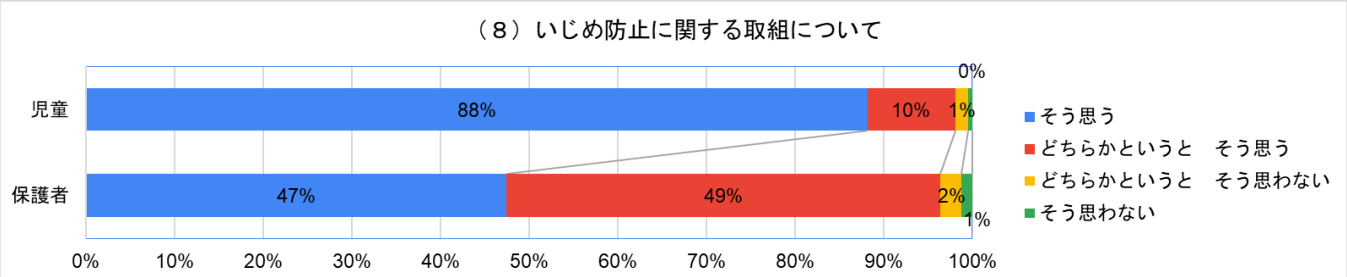


（７）学年チームによる支援・見守りについては、児童の 86%、保護者の 99%が肯定的に回答しており、学年全体で子どもたちを見守る取組について保護者の皆様から極めて高い評価が得られました。一方で、児童の 14%（「どちらかというとそう思わない」11%、「そう思わない」3%）は否定的な回答をしており、保護者との意識に差が見られます。これは、「担任以外の先生に気軽に話ができるようになりましたか」という設問項目でしたが、副担任の教員と直接対話する場面が限られており、話し掛けるきっかけをつかめていない児童が一定数いるためと考えられます。子どもたちの性格によっては、まだまだ自分から話しかけることが苦手な子どもたちもいるため、今後は、学年行事や日常の学校生活の中で、担任以外の教員が関わる場面や声掛けの機会を意識的に増やして参ります。あわせて、教員間での児童情報の共有を密にし、どの教員でも児童に寄り添った対応ができる実効性のある学年チーム体制づくりを進めて参ります。

（８）いじめ防止に関する取組について

【設問】

- **児　童**：自分は、いじめはどんなことがあってもしてはいけないと思いますか。
- **保護者**：学校は、いじめ防止に関する取組や授業を通して、いじめに対する正しい認識を児童に育んでいると思いますか。

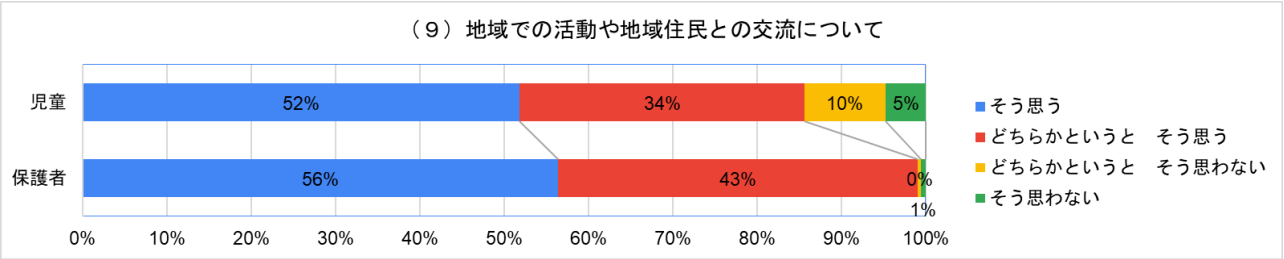


（８）いじめ防止に関する取組については、児童の 98%、保護者の 96%が肯定的に回答しており、いじめ防止に向けた取組について非常に高い評価が得られました。年３回のふれあいアンケートの確認や道徳の授業等を通して、いじめは絶対に許されないという正しい認識が子どもたちに定着していることがうかがえます。今後も、アンケート等の情報の迅速な把握と組織的な対応を徹底し、子どもたちが発する小さなサインを見逃さない体制を継続して参ります。（６）（７）の取り組みとも合わせて、小さな気持ちのすれ違いから起こり得る子どもたちの困り感や不快感にも耳を傾けるとともに、日常的な言葉遣いや相手の気持ちを考える指導を積み重ね、御家庭とも連携しながら誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めて参ります。

（９）地域での活動や地域住民との交流について

【設問】

- **児　童**：授業や学校行事で、地いきのさまざまな大人（ゲストティーチャーやボランティア、専門家の人など）と出会い、いろいろなお話をしたり聞いたりする活動に楽しく取り組んでいますか。
- **保護者**：学校は、地域農園での活動や地域住民との交流を通して、子どもたちが豊かな自然や温かい人々に見守られて育つ環境をつくっていると思いますか。

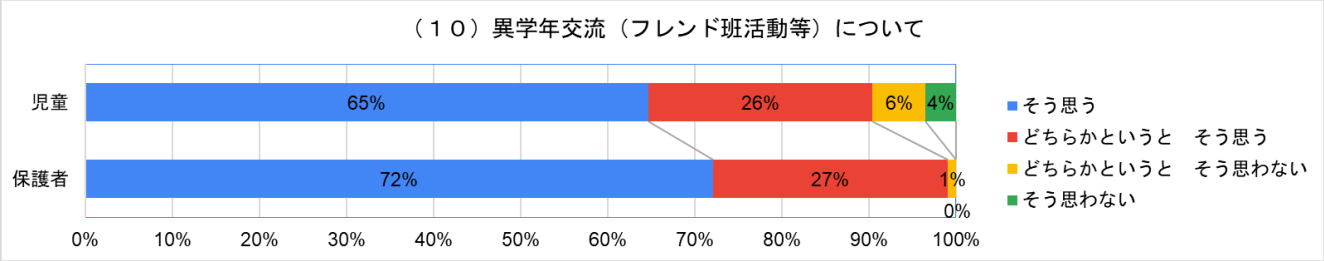


（９）地域での活動や地域住民との交流については、児童の 86%、保護者の 99%が肯定的に回答しており、本校の取組について高い評価が得られました。地域農園での体験やボランティアの方々との触れ合いを通して、地域への愛着や感謝の心が育まれていることがうかがえます。一方で、児童の 15%（「どちらかというとそう思わない」10%、「そう思わない」5%）は否定的な回答となっており、保護者との意識の差が見られます。これは、活動への参加が受動的なものにとどまってしまい、地域の方々と「直接関わった・会話を楽しんだ」という実感を十分に得られていない児童が一定数いるためと考えられます。今後は、事前のめあて付けや事前学習を工夫し、単なる体験にとどめることなく「何を学び、どのように生かすか」を丁寧に振り返る指導を行い、地域の教育資源を生かした探究的な学びを更に充実させて参ります。

（１０）異学年交流（フレンド班活動等）について

【設問】

- **児　童**：フレンド班活動などで、他の学年の友達と遊んだり、いっしょに活動したりすることは楽しいですか。
- **保護者**：学校は、学年を超えた関わりがもてる活動を工夫していると思いますか。

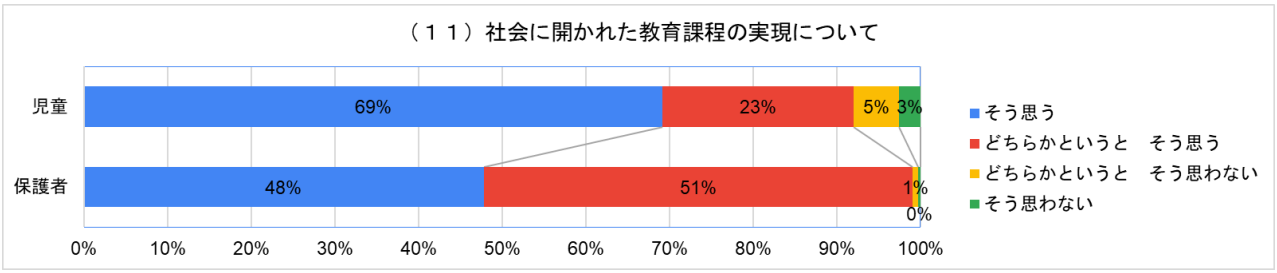


（１０）異学年交流(フレンド班活動等)については、児童の 91%、保護者の 99%が肯定的に回答しており、学年を超えた関わりを促す取組について高い評価が得られました。今年度からは、異学年で遊ぶだけでなく、協力して校内をきれいにする「フレンド班清掃(縦割り清掃)」を導入いたしました。これは、開校当初から本校で長い間行われていた取組です。遊びの場面だけでなく、日常的な勤労・奉仕活動を共にすることで、上級生がリーダーシップを発揮し、下級生を優しく思いやる姿や、互いに協力し合う思いやりの心がより一層育まれると感じています。さらに「なわとび月間」も取り入れ、異学年での交流を深めて参ります。ぜひ御家庭におかれましてもお子様に交流の様子をお尋ねいただき、お話しするきっかけにしていただければ幸いです。今後も、全ての児童が達成感や自分の役割を実感できるよう活動内容を工夫し、豊かな人間関係を築き、児童の自尊感情や自己肯定感を高めて参ります。

（１１）社会に開かれた教育課程の実現について

【設問】

- **児　童**：授業（生活科や総合的な学習の時間など）で、学校の周りの自然で勉強したり、地域農園、施設に出かけたりして学ぶことは楽しいですか。
- **保護者**：学校は、地域の教育資源を活用した学習を充実させていると思いますか。

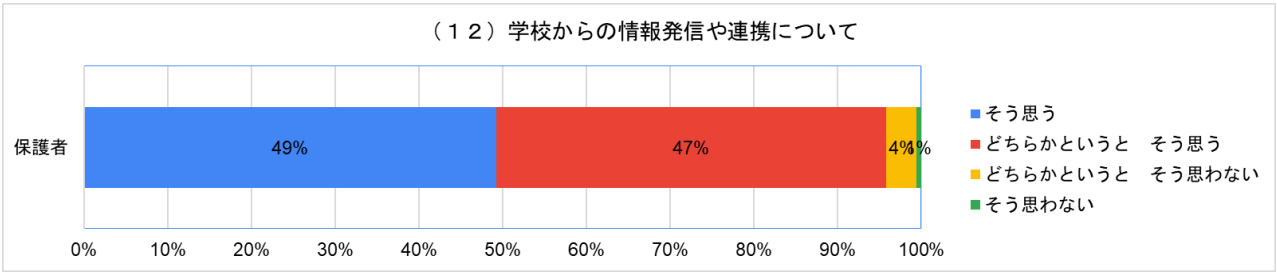


（１１）地域の教育資源を活用した学びについては、児童の 92%（うち「そう思う」が 69%）、保護者の 99%が肯定的に回答しており、地域と関わる学習について極めて高い評価が得られました。生活科や総合的な学習の時間等を中心に、地域の自然や施設を活用した体験学習を計画的に設けてきたことが、子どもたちの強い興味・関心や学びへの意欲の高さにつながっていることがうかがえます。今後は、子どもたちのこうした高い意欲を大切にしながら、地域の人・もの・ことを効果的に活用した単元や授業を構想・展開して参ります。

（１２）学校からの情報発信や連携について

【設問】

- **保護者**：学校は、学校便りや学校便り、配信アプリ（すぐーる等）などを通して、保護者に必要な情報や子どもの様子を適切に伝えていると思いますか。



（１２）学校からの情報発信や連携については、保護者の 96%が肯定的に回答しており、日頃の温かい御理解に心より感謝申し上げます。一方で自由記述では、「行事や月間予定をもう少し早めに知りたい」、「タブレット学習や家庭学習の内容、学校での様子(写真など)をもっと分かりやすく教えてほしい」といった、保護者の皆様の生活や御家庭でのサポートに直結する貴重な御意見を数多くいただきました。 行事や月間予定につきましては、次の月の 1 週間分の予定は前月の月間予定表に載せておりますが、今後も迅速なお知らせに配慮して参ります。また、タブレット学習や家庭学習の内容、学校での様子につきましては、ぜひお子様にお声掛けいただき、Google classroom や Google スライド、ドキュメント、FigJam、ミライシードなどを一緒に御覧いただきながら、御家庭でお話する機会にしていただければ幸いです。学校におきましても、HP や学校便り、Classroom 等を通して子どもたちの活動の様子を定期的にお伝えして参ります。御家庭と学校がよりスムーズに連携し、安心して子どもたちを見守っていただける環境づくりに努めて参ります。

　なお、各学年が月に 4 回ほど、HP に『上小フォト日記』を更新しております。ぜひ、御自分のお子様の学年ページを御覧ください。今回いただいたアンケート結果を校内で共通理解し、学校教育の改善に生かして参ります。今後とも御理解・御協力の程、よろしくお願いいたします。

URL：https://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai/life/nikkui/reiwa8nenndo/index.html